

整理番号 39

著者名： 井上 公夫

書籍名： 歴史的な大規模土砂災害地点を歩く（そのⅡ）

出版社： 丸源書店

ISBN： ISBN978-4-9904459-6-6

判型： B5判

頁数： 308p.（全文カラー）

定価： 6000円＋税

出版年月日： 2019年8月20日

レビュー：私は5年前の2015年4月から土木情報サービス「いさばうネット」で、「歴史的な大規模土砂災害地点を歩く」の連載を開始し、2019年7月現在コラム60まで公開されています。2018年6月に丸源書店より『歴史的な大規模土砂災害地点を歩く』と題して、コラム1~30をまとめて出版しました。2016年4月の熊本地震、2018年6月の西日本豪雨災害などがあると、アクセス数がかなり増加しました。

このため、コラム31~50をまとめて（そのⅡ）として出版することにしました。

本書（そのⅠ）（そのⅡ）の目的は「過去の災害に学び・生かすこと」です。



いさばうネット

歴史的な大規模土砂災害地点を歩く

（そのⅡ）

井上公夫 著

表紙の説明

関東地震の震源域は神奈川県から千葉県南部であったため、神奈川県内の被害は極めて大きく、103ヶ所、死者・行方不明者 945 人+139 人にも達しました。神奈川県西部で37ヶ所、650人+74人、同県東部で66ヶ所、295人+65人が亡くなっています。横浜市内でも27箇所、68+60人が亡くなっていますが、火災による横浜市の死者 24,646 人の中には、地震後の延焼によって崖崩れから逃げられずに、亡くなった人も多いと想定されます（「コラム37」の表1、2）。

表紙の地図はブルーの逃避行ルート（赤線）と現地見学会ルート（緑線）です。線で示したように、ブルーは動いていた関内のドッドウェル商会事務所から山手台地にある自宅まで必死になって歩いて行き、家族（妻ドロシーと6・4・3歳の3人の男子）と会うことができました。

その後、フランス波止場に繋留されている義父所有のヨットに乗るまで、非常に大変な逃避行を行いました。2013年9月21日の「横浜市内現地見学会」は、左下の表に示したように、なるべくブルーの逃避行ルートに沿って、道がなくなっている箇所は緑線で示したルートを歩きながら、関東地震当時の災害状況を追体験する目的で行いました。表紙の左下に「現地見学会地点」を示し、右上には「関東大震災の慰霊碑」の位置を示しました。

横浜に行かれたら、この地図を持って散策されることをお勧めします。

関東地震による土砂災害の詳細については、「コラム37~40」をご覧ください。

